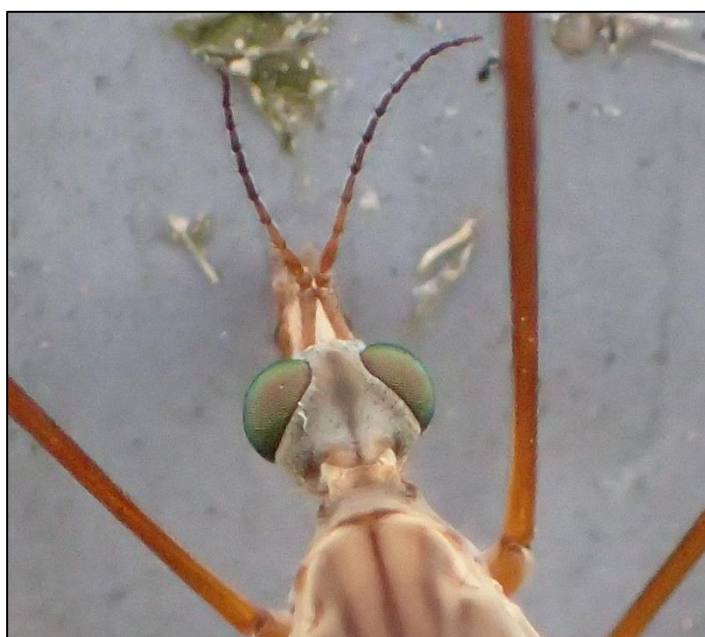


## カのなかま

カ科やガガンボ科などに代表されるグループです。「弱々しい体」と「糸のような長い触覚」が主な特徴です。



## ①カ科

刺されるとかゆくなるお馴染みの害虫です。血を吸うにあたって、麻酔効果のある唾液を皮膚に注入するので、刺されても痛みは感じません。しかし、注入された唾液に対してアレルギーが起きる結果、刺された後は、かゆくなってしまいます。



### コラム4 蚊柱その1

夏の夕方頃、蚊のような生き物の大群が飛んでいる様子を見かけることはないでしょうか。自転車に乗っていると、顔面から大群に突っ込んでしまうこともあり、実に不快です。この大群は「蚊柱」と呼ばれ、カ科だけでなくユスリカ科やガガンボ科なども作ります。ちなみに、普段の生活でよく目にする蚊柱はカ科ではなくユスリカ科が作っています。

## ②ガガンボ科

大きな蚊という印象のハエです。体がもろく触ると簡単に足がとれます。蚊と違って、血を吸うことはないのですが、見た目が気持ち悪いと感じられるためか、嫌がられやすいです。



### ③ガガンボダマシ科

ガガンボ科と似ていますが別の科です。ヒメガガンボ科やシリプトガガンボ科など、名前に「ガガンボ」と付く科は他にもあり、どれもガガンボ科とよく似ているので、間違えないよう注意が必要です。



## コラム5 ハエの翅脈その1

「なぜこの人は翅だけの写真を撮っているのだろうか?」と思っている方もいるのではないのでしょうか。実はちゃんと理由があるのです。ハエの名前を調べるのに、翅の“すじ”（「翅脈<sup>しみやく</sup>」といいます）は強力なヒントになります。翅脈に注目すれば、見た目がそっくりなガガンボ科とガガンボダマシ科も簡単に区別することができてしまいます。

次のページにはガガンボ科とガガンボダマシ科の翅を載せています。「A<sub>1</sub>脈」と「CuP脈」という書き込みがありますが、これは翅脈の名前です。今回は、A<sub>1</sub>脈とCuP脈以外の翅脈に名前を振っていませんが、実際は他の翅脈にも名前がついています。翅脈の名前は、資料と見比べながら振っていくのですが、慣れないうちは、この作業が大変です。

ガガンボ科とガガンボダマシ科の翅脈で特に注目してもらいたいのはA<sub>1</sub>脈です。ガガンボ科ではA<sub>1</sub>脈はCuP脈の半分くらいの長さでまっすぐ伸びているのに対して、ガガンボダマシ科ではA<sub>1</sub>脈はCuP脈の半分以下の長さしかなく、さらに、後ろに向かって急カーブしています。

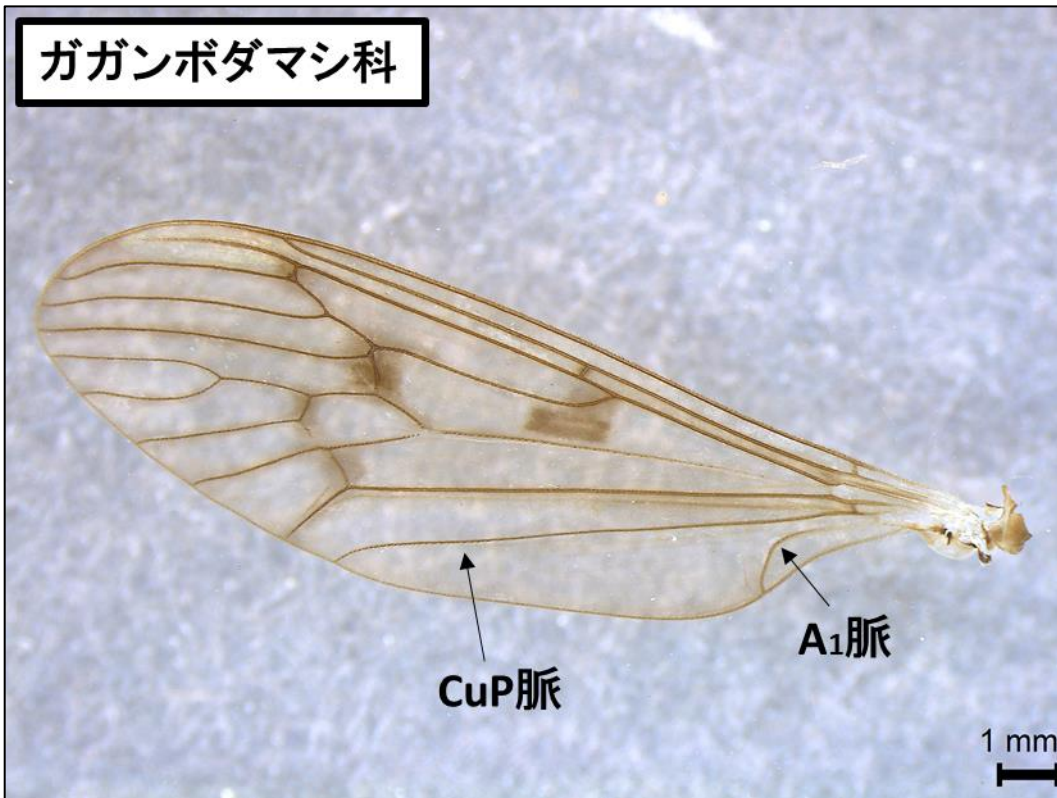
ハエの名前を調べるのに翅脈の観察は避けては通れません。しかし、色々なハエを見て、調べて、間違えてを何度も繰り返していると、翅脈を見るだけで、その翅の持ち主がどういうハエかある程度推定することができるようになります。

コラム5 つづき

ガガンボ科



ガガンボダマシ科



## ④カバ工科

ハ工カ科とも呼ばれます。名前にカとハ工の両方がついていますが、カのみかまでです。森林などで暮らしていて、市街地ではあまり見かけません。



## ⑤キノコバエ科

ナミキノコバエ科、タケカ科とも呼ばれます。分類が非常に難しいです。

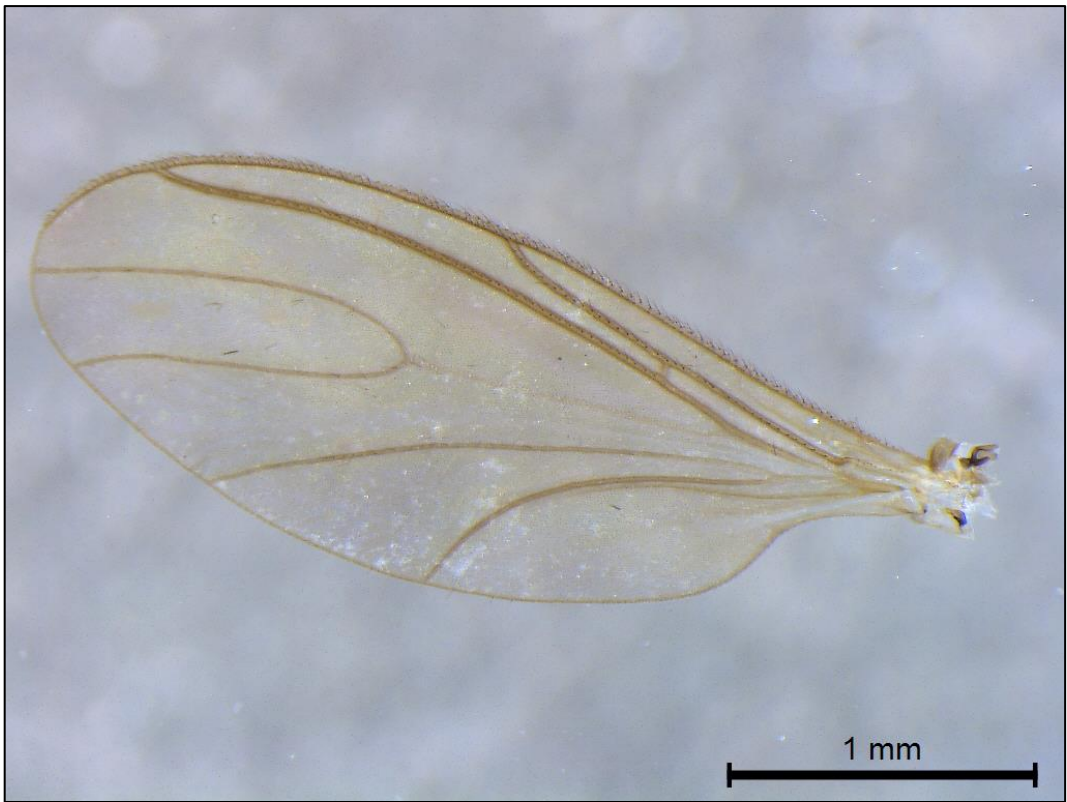




## ⑥クロキノコバエ科

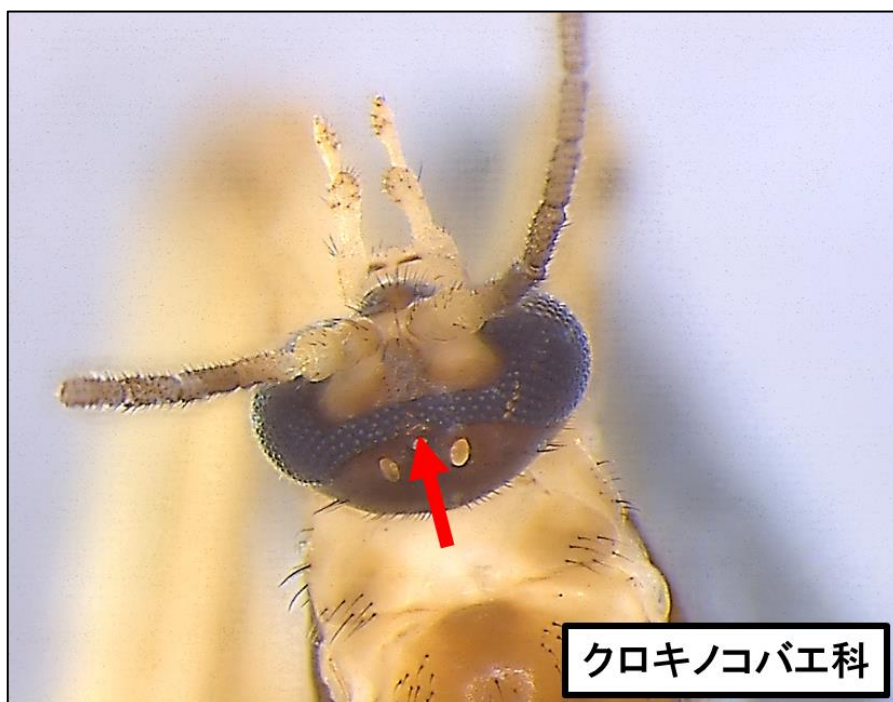
クロバネキノコバエ科、クロカ科とも呼ばれます。クロバネキノコバエ科と呼ばれるだけあって、翅が黒色のものもいますが、下の写真のように翅が無色透明なものもいます。梅雨の時期に大量発生し、室内に入り込むということで、ここ数年話題になりました。毒はなく、血を吸うこともありませんが、不快です。クロキノコバエ科でも小さなものは網戸の隙間を通り抜けてしまいます。





## コラム6 キノコバエ科とクロキノコバエ科の見分け方

キノコバエ科とクロキノコバエ科を見分けるコツは、「左右の複眼がくっついていていないか」です。キノコバエ科は複眼がくっついていませんが、クロキノコバエ科は複眼がくっついてます（↑）。



## ⑦ケバ工科

オスとメスで印象が大きく違うハ工です。力のなかまらしからぬ頑丈そうな体です。市街地でも春先はよく見かけます。





## コラム7 ハエの触覚

11 ページでカのなかまの特徴の1つとして、「糸のような長い触覚」を挙げました。カ科やガガンボ科、キノコバエ科などは確かにそのような触覚ですが、下のケバエ科の触覚はどうでしょう。

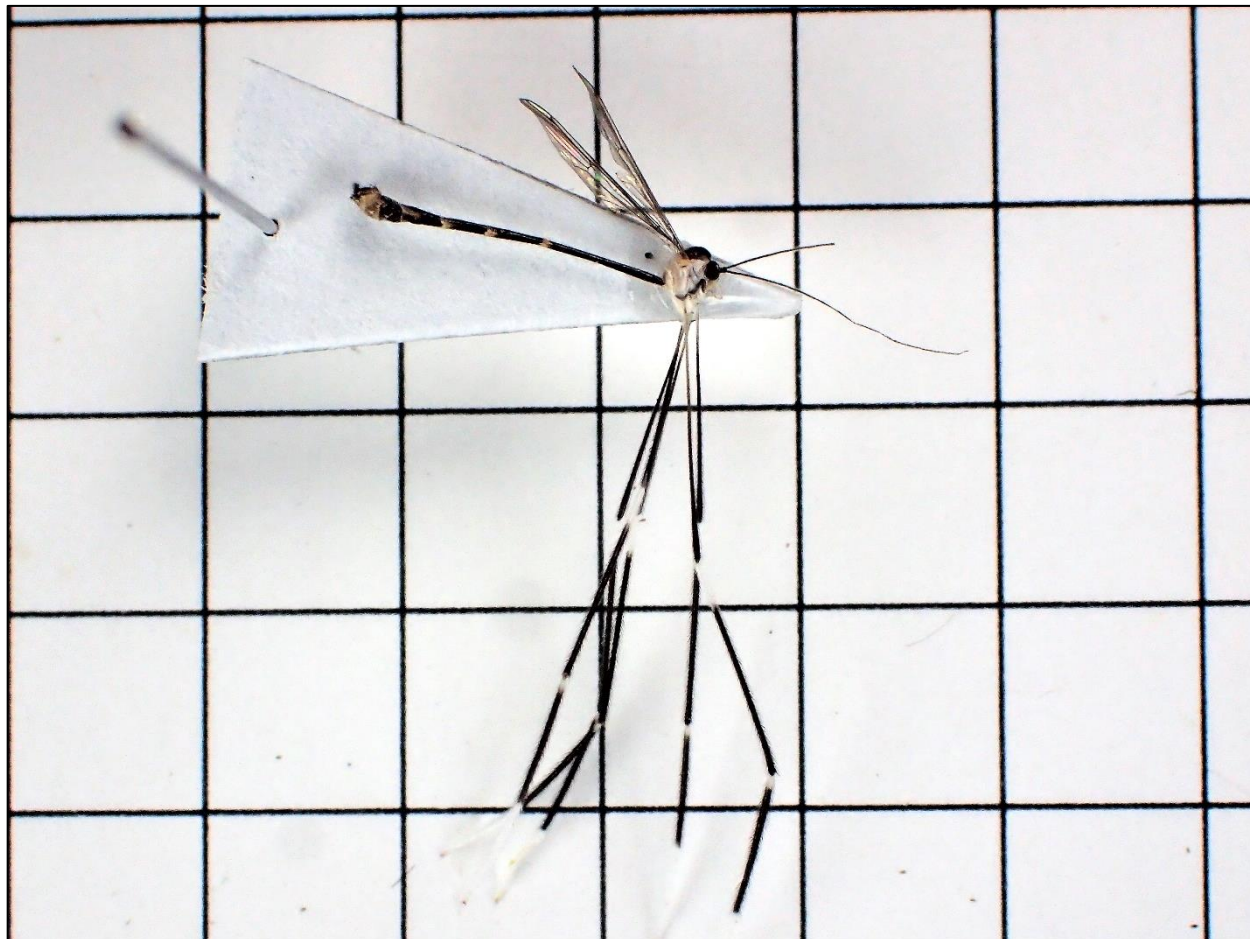
私は初めてケバエ科を見た時、カのなかまであるとすぐには思いつきませんでした（体ががっしりしていますしね）。また、アブやハエのなかまには、カのなかまのような触覚をしたものもいます。分類する際には、色々な部位を観察することが大事です。

ケバエ科



## ⑧ コシボソガガンボ科

下の写真の個体は、夏に川べりでふわふわと飛んでいるところを捕まえました。ガガンボ科がさらに頼りなくなったような見た目で、体ももろいです。



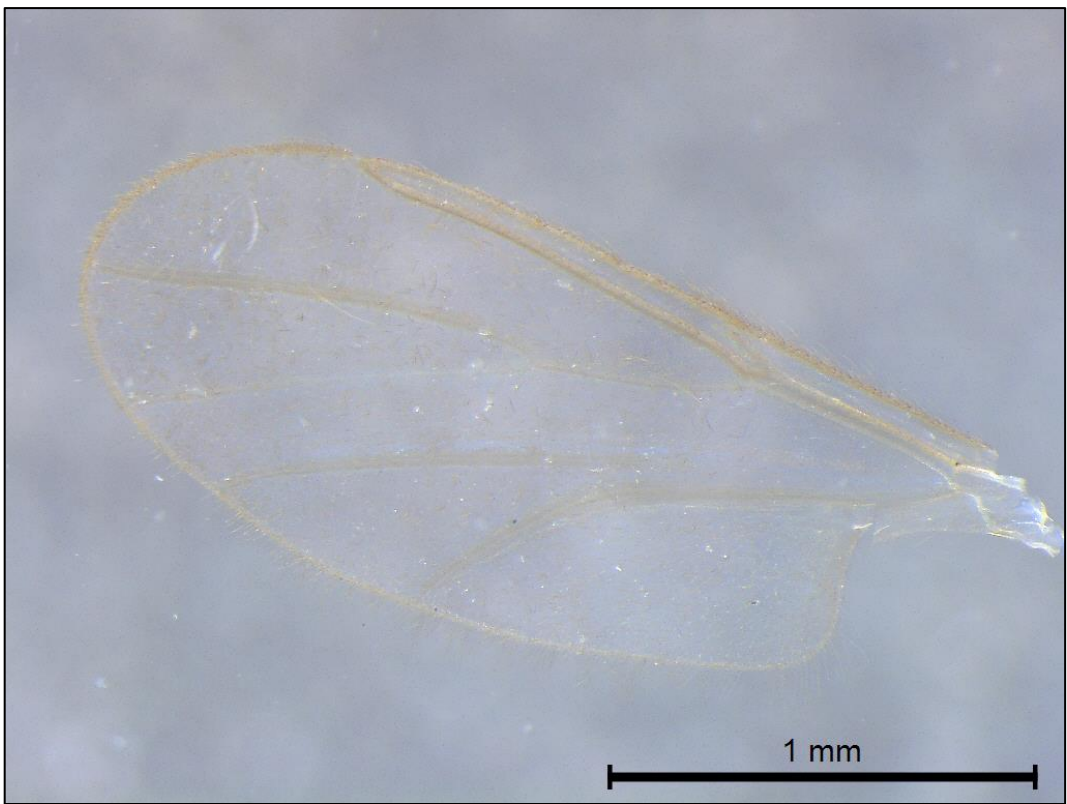
※ 背景は5mm方眼紙です

## ⑨タマバエ科

植物にこぶ（虫こぶ）を作るハエです。翅に細かい毛が生えていて、翅脈は少ないです。







## ⑩ チョウバ工科

下水や排水といった汚い場所で幼虫が育ちます。成虫もトイレの壁などに止まっていることが多いです。室内に入ってくるので困ります。



## ⑪ニセケバ工科

名前のお通り、ケバ工（メス）に似たハ工です。幼虫は腐った植物や果実から発生し、緑地の多い工場などでは室内に侵入するため問題になります。



## ⑫ヌカカ科

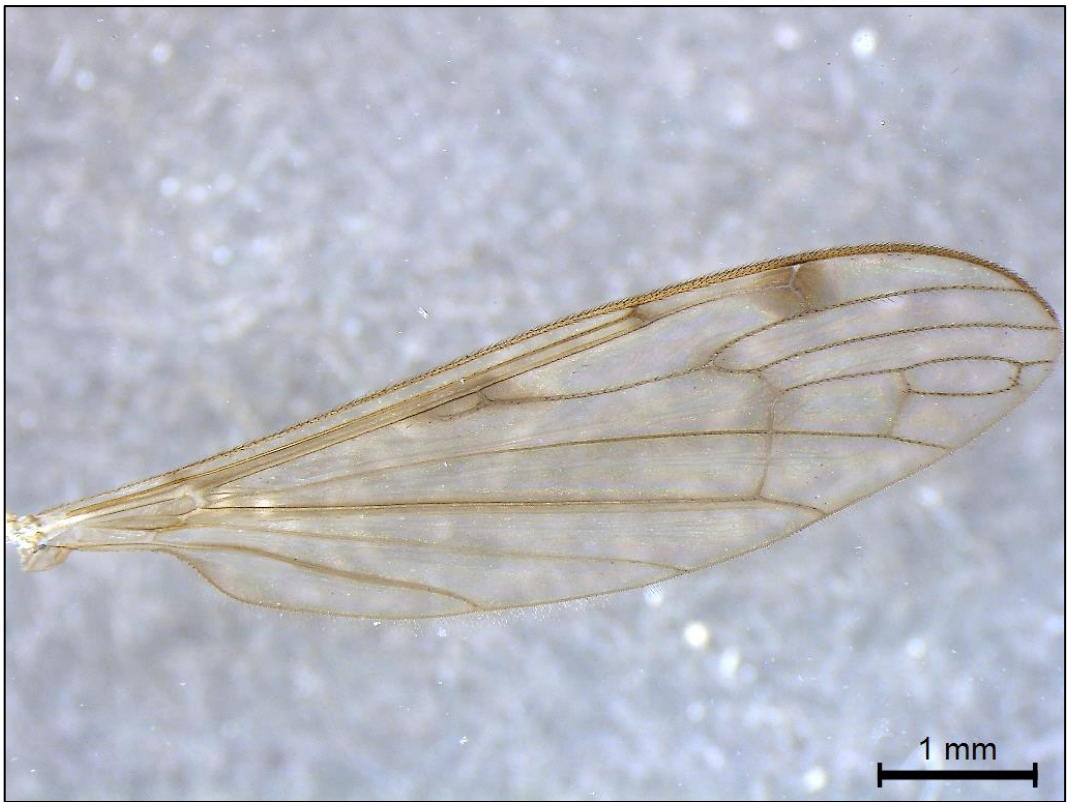
水辺に多いハエです。小さいので気づきにくいですが、人の血を吸う種類もいて、吸われると、かゆくなります。キャンプや川遊びをする人は注意した方が良いでしょう。



## ⑬ ヒメガガンボ科

ガガンボ科と似ていますが別の科です。見分けるにはやはり翅脈がポイントの1つになります。





## ⑭ ブユ科

ヌカカ科と同じく水辺に多いハエで、人の血を吸う種類もいて、吸われると、かゆくなります。キャンプや川遊びをする人は注意した方が良いでしょう。



## ⑮ ユスリカ科

カ科に似ていますが、成虫は口が退化しているため、血を吸いません。しかし、ユスリカ科を誤って吸いこむことで、鼻炎や喘息といったアレルギーが起きることがあります。幼虫は下水や排水などの汚い水溜まりでよく見られます。釣りの餌に使う「アカムシ」はユスリカ科の幼虫です。



### コラム8 蚊柱その2

蚊柱は「街コン」のようなものです。蚊柱を作っているのは基本的にオスの大群で、メスがそれに突っ込んでいき、気の合うオスが見つければカップルが成立します。その後、2匹は蚊柱を抜け出し、どこかへ飛んでいきます。



